

～読んでみない？こんな本～

ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく みつよしなつや やく ほるぷ出版



ガンピーさんは小舟を一そう持っていて、家は川のそばにあります。ある日ガンピーさんが舟に乗って川下りを始めると、子ども、うさぎ、ねこ、いぬ、ぶた、ひつじ、ニワトリ、子うし、やぎといった順に、子どもやたくさん動物が「私も行きたい」と言って舟に乗るのを頼んできました。ガンピーさんは快くみんなを乗せ、楽しく川下りをしていたのですが、そのうちやぎがけっとばし、子うしがどしんどしん歩き回るといった具合になり、ついには舟が傾いて全員が川の中へ落ちてしまいます。びしょぬれになった動物も子どももガンピーさんも、土手に上がってお日さまで体を乾かしてから家へ帰りました。最後にガンピーさんはさようならを言い、「また いつか のりにおいでよ」と声をかけます。

ガンピーさんの舟に子ども2人と動物が8匹も乗り込み、読んでいる方はぎゅうぎゅう詰めになっていくのがだんだん分かってるのですが、ガンピーさんはみんなを快く乗せてあげ、転覆しても動じず、最後にはまたおいでと声をかけます。このおおらかさがこの本の魅力かもしれません。

みんなでお茶会をしている場面は和やかな雰囲気で見ているとホッと、幸せな気分になります。バーニンガムの作品はたくさんありますが、この本は中でもさわやかな絵本の一つです。